

# 経営比較分析表／団体全体（平成30年度決算）

和歌山県 紀の川市

【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m <sup>3</sup> /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m <sup>3</sup> )
法適用	工業用水道事業	2,300	極小規模	1	1,226
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m <sup>3</sup> /日)	管理者の情報	
-	40.8	9	1,330	非設置	

## グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率  
平成30年度においては、100%以上で全国・類似団体平均も上回っています。また、人件費等の経費削減努力により対前年度比15.47%の増加となっております。
- ②累積欠損金比率は発生していません。
- ③流動比率  
平成30年度は類似団体の平均値を下回っていますが、企業債の償還が進んだことで対前年度比26.76%の増加となっております。
- ④企業債残高対給水収益比率  
平成30年度は、対前年度比▲44.79%と減少傾向となっているものの、全国・類似団体平均と比較すると企業債残高が多額となっております。今後、企業債の償還が進むことで当該比率の減少も予想されますが、今後の更新計画に備えた計画的な企業債の活用が必要です。
- ⑤料金回収率  
上記①と同様、人件費等の経費削減努力により対前年度比16.15%の増加となっております。
- ⑥給水原価  
上記①と同様、人件費等の経費削減努力により対前年度比7.15%の減少となっております。
- ⑦施設利用率  
類似団体平均より高いものの、全国平均より低い状況であるため、新たな給水先の確保や更新時に施設規模の見直しを検討することも必要です。
- ⑧契約率  
類似団体平均より高いものの、全国平均より低い状況であるため、新たな給水先の確保や更新時に施設規模の見直しを検討することも必要です。

### 2. 老朽化の状況について

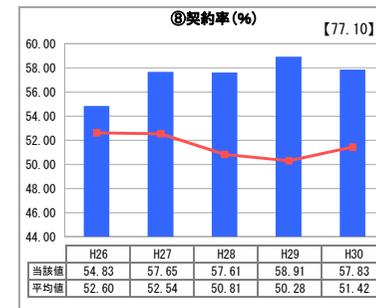
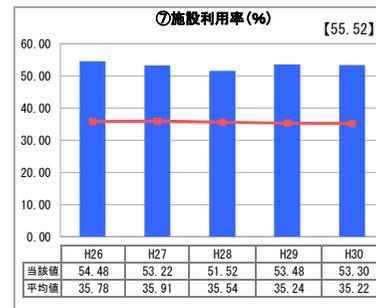
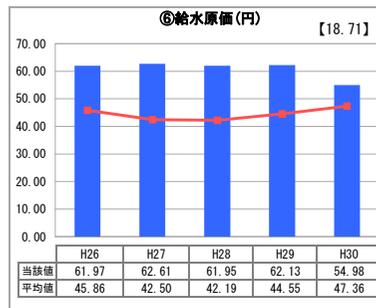
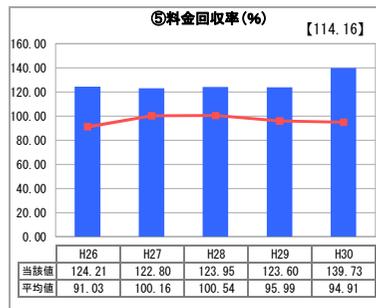
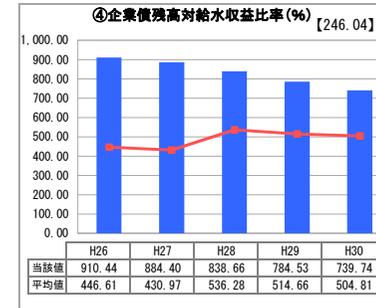
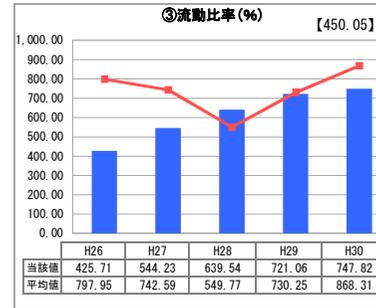
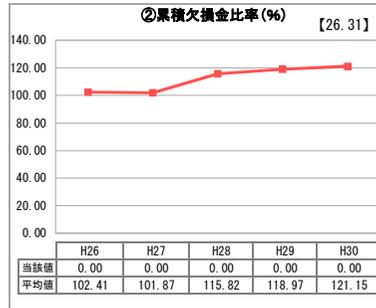
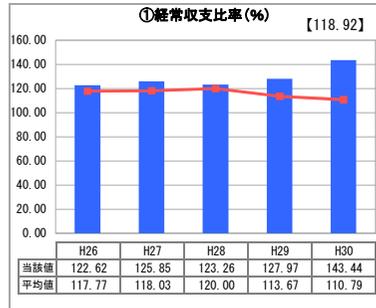
- ①有形固定資産減価償却率  
全国・類似団体平均を下回っているものの、対前年度比2.28%と経年比較では増加傾向であるため、今後、計画的な更新が必要です。
- ②管路経年化率  
当市は比較的新しい管路が多い状況ですが、一部の管路において、数年後には耐用年数を経過する見込みであり、限られた財源の中で優先度を考慮し、計画的な更新を実施することが必要です。
- ③管路更新率  
当市の事業規模は極小規模であるため、緊急的な漏水対策等による更新以外は、計画的な更新を実施していませんが、今後、一部の管路において、数年後には耐用年数を経過する見込みであり、限られた財源の中で優先度を考慮し、計画的な更新を実施することが必要です。

## 全体総括

当市工業用水道事業における経営状況は、規模が極小であるため、給水収益の増減が経営に大きな影響を及ぼします。安定的で持続可能な経営を実現するためには、給水収益の確保が重要であるため、現在の契約水量維持を図りつつ、一般施業と協調しながら新たな給水量の確保や契約水量の増加を図る努力が必要です。

また、安定的な事業経営と健全な資産を維持するためにも経営戦略を策定し、今後、老朽化が進む施設・管路の更新事業や耐震事業等の必要不可欠な投資事業の財源を確保するために、経費削減などの更なる効率化に努め、投資計画と財政計画の均衡を図りながら計画的な事業推進を図ります。

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況

